

出國報告（出國類別：其他 - 演出活動）

《繡襦夢》
臺日跨國跨界共同製作及演出
2018 日本首演暨巡演計畫

服務機關：國立傳統藝術中心

1)姓名職稱：張育華團長等 7 名

派赴國家/地區：日本

出國期間：2018 年 5 月 13 日至 5 月 17 日(宣傳期)

2)姓名職稱：吳榮順主任等 22 名

派赴國家/地區：日本

出國期間：2018 年 6 月 4 日至 6 月 18 日(演出期)

報告日期：2018 年 8 月 13 日

【摘要】

歷時三年籌劃，國光劇團與橫濱能樂堂籌製臺日跨國跨界共同製作《繡襦夢》規劃於 6 月在日本橫濱、新潟及豐田三地展開首演及巡演推動。本團特別規劃於 5 月 13 日至 17 日期間先行赴日，進行演出前密集推廣與宣傳，由張團長育華統籌率領主演及行政製作群等人推動兩場講座及接受六家日本媒體專訪，催生票房及創造媒體報導露出，成效豐碩。本計畫於 6 月 4 日至 18 日演出期間由國立傳統藝術中心吳主任榮順擔任領隊，國光劇團張團長育華統籌與王安祈藝術總監協同本案導演、戲劇顧問及音樂統籌及國光製演團隊赴日於橫濱能樂堂、新潟市民藝術文化會館能樂堂及豐田市能樂堂演出，結合日本三地場館合作，共進行四場正式售票公演、四場演前導聆、一場藝文導覽、一場校園推廣講座及二場演後交流酒會等活動。演出成功，廣受各界佳評，獲媒體及評論高度正面評價。

媒體評論摘取重點：

1. 「中央社」記者楊明珠於 6 月 9 日報導刊登「台日共編繡襦夢新戲 全球首演備受好評」
2. 「中國時報」記者李欣恬於 6 月 11 日報導刊登標題為「崑曲、舞蹈攜手 繡襦夢驚豔東瀛」
3. 日本知名劇評人大岡淳表示：「就歷史意義而言，這個作品為傳統戲曲找到新未來。」

【目次】

摘要	2
壹、前言	
一、計畫緣由	4
二、計畫目的	4
貳、行程安排、人員及計畫執行重點	
一、行程	5
二、出國人員	7
三、計畫執行重點及內容	8
參、計畫執行心得	20
肆、建議事項	20
伍、附件-日台媒體報導	21

壹、前言

一、計畫緣由

2015~2017 年間歷時三年，日本橫濱能樂堂館長中村雅之來台與國光製演團隊洽談及研議共同製作題材、合作模式及互訪創作激盪與排練，雙方擘劃出 2018 共同製作《繡襦夢》-崑曲與日本古典藝能三味線及舞踊交融的新編實驗作品 6 月於日本首演暨巡演，規劃於橫濱能樂堂演出 2 場、新潟市民藝術文化會館能樂堂演出 1 場及豐田市能樂堂演出 1 場。

二、計畫目的

《繡襦夢》的製作計劃，是崑劇與日本的古典藝能這兩個長演不歇的文化相會，也是台灣最具製作品牌與文化創新之團隊「國光劇團」與日本關東地區最古老的能舞台「橫濱能樂堂」專業劇場的精彩合作。數百年來臺日兩大劇種之一期一會，以文化交流及國際合作創新之探索，讓傳統經典如花開般永續綻放，許傳統與當代及跨界探索未來，本計畫堪為臺日攜手合作開創之扉頁留下歷史性的紀錄與典範。

「國光精神」品牌形象深耕多年，「承繼經典，文化創新」已成為本團隊努力及永續經營的目標，更在兩岸三地創造出「台灣京崑新美學」的口碑，勇於創新跨文化、跨領域及跨團隊合作的演出，不斷自我挑戰及突破現況困境，歷年來發展亞太地區共製合作，以其製作品牌能力，引領亞太及兩岸對傳統文化的保存與發展有更多元、更深入的當代對話、未來探索及傳承延續，期許本計畫演出合作之成功模式，將持續帶動亞太及全球合作趨勢。

貳、行程安排、人員及計畫執行重點

一、 五月宣傳行程

時間		地點	行程說明
5月13日 (日)	上午	台北-東京	自台灣搭乘飛機至東京
	下午	東京	世界華人工商婦女企管協會日本分會推廣講座 @ 駐日本臺灣文化中心
5月14日 (一)	下午	橫濱市	服裝試裝暨討論會議@橫濱能樂堂
	下午	橫濱市	媒體專訪 I -神奈川新聞@橫濱能樂堂
	晚上	橫濱市	橫濱華僑總會推廣講座@橫濱能樂堂
5月15日 (二)	上午	東京	媒體專訪 II -共同通訊社@半藏門格蘭亞克酒店
	下午	東京	媒體專訪 III -朝日新聞@朝日新聞總部
	晚上	東京	台日案製作會議 與橫濱能樂堂
5月16日 (四)	上午	東京	媒體專訪 IV -讀賣新聞@讀賣新聞總部
	下午	東京	媒體專訪 V -東京新聞@東京新聞總部
	下午	東京	媒體專訪 VI -每日新聞@帝國大飯店
	晚上	東京	台日案行政會議@帝國大飯店
5月17日 (五)	上午	東京	採買髮妝材料
	下午	東京-台北	搭機返台

※全程宿東京

二、 六月演出行程

時間		地點	行程說明
6月4日 (一)	上午	台北-東京	自台灣搭乘飛機至東京
	下午	東京-橫濱	轉往橫濱能樂堂 - 演出道具卸貨 - 橫濱旅館入住
6月5日 (二)	上午	橫濱能樂堂	《繡襦夢》排練(1)
	下午	橫濱能樂堂	《繡襦夢》排練(2)
6月6日 (三)	上午	橫濱能樂堂	《繡襦夢》排練(3)
	下午	橫濱能樂堂	髮妝討論及試妝會議 / 操偶師排練
6月7日 (四)	上午	橫濱能樂堂	紀錄片拍攝-服裝設計工作室
	下午	橫濱能樂堂	《驚夢》排練 + 《繡襦夢》排練(4)
	晚上	橫濱市	拜會駐日代表處橫濱分處
6月8日 (五)	上午	橫濱能樂堂	紀錄片拍攝-常磐津文字兵衛
			舞踊《汐汲》《藤娘》排練
	下午	橫濱能樂堂	《驚夢》+《繡襦夢》彩排驗收

時間		地點	行程說明
	晚上	橫濱關內	媒體餐敘討論及交流
6月9日 (六)	上午	橫濱能樂堂	臺灣藝文團-橫濱能樂堂導覽
	下午	橫濱能樂堂	演前導聆+《繡襦夢》日本首演 三段式演出:傳統崑《驚夢》+日本舞踊《藤娘》+《繡襦夢》
	晚上	橫濱-新潟	搭乘遊覽車轉往新潟
6月10日 (日)	上午	新潟能樂堂	走位、排練
	下午	新潟能樂堂	演前導聆+《繡襦夢》演出 二段式演出:傳統崑《驚夢》+《繡襦夢》
	晚上	新潟能樂堂	演後交流酒會
6月11日 (一)		新潟	自由文化參訪
6月12日 (二)		新潟-東京	搭乘遊覽車轉往東京
	晚上	東京	與駐日台灣文化中心會議餐敘
6月13日 (三)		東京	2020 東奧展演籌備場勘-杉並區公會堂
6月14日 (四)		東京	自由文化參訪
6月15日 (五)	上午	東京-豐田	搭乘遊覽車轉往豐田
	下午	豐田東高校	崑曲藝術工作坊
6月16日 (六)	上午	豐田市能樂堂	走位、排練
	下午	豐田市能樂堂	演前導聆+《繡襦夢》演出 二段式演出:傳統崑《驚夢》+《繡襦夢》
	晚上	豐田市能樂堂	搭乘遊覽車轉往橫濱
6月17日 (日)	上午	橫濱能樂堂	傳統崑《打子》響排
	下午	橫濱能樂堂	演前導聆+《繡襦夢》演出 三段式演出:傳統崑《打子》+日本舞踊《汐汲》+《繡襦夢》
	晚上	橫濱能樂堂	演後慶功酒會
6月18日 (一)	上午	橫濱能樂堂	演出道具裝車
	下午	橫濱能樂堂	搭機返台

※全程宿橫濱、新潟、東京及豐田

三、 出國人員

五月宣傳期

編號	職稱	姓名	去回程起迄日
1	團長	張育華	5/13-5/17
2	約聘編纂	余翦苓	5/13-5/17
3	執行製作	王品芊	5/13-5/17
4	演員	溫宇航	5/13-5/17
5	演員	劉珈后	5/13-5/15
6	音樂	林杰儒	5/13-5/15
7	廂管容妝	張美芳	5/13-5/15

六月演出期

編號	職稱	姓名	去回程起迄日
1	領隊	吳榮順	6/11-6/18
2	團長	張育華	6/07-6/18
3	藝術總監/編劇	王安祈	6/07-6/09
4	排練指導	馬寶山	6/04-6/18
5	副研究員	王玉玲	6/11-6/18
6	製作經理	游庭婷	6/07-6/18
7	綜企組/副研究員	陳佩君	6/08-6/11
8	執行製作	王品芊	6/04-6/18
9	國外行政/公關與資源拓展	余翦苓	6/04-6/18
10	演出行政	李永德	6/04-6/18
11	主演	唐文華	6/16-6/18
12	主演	溫宇航	6/04-6/18

編號	職稱	姓名	去回程起迄日
13	主演	劉珈后	6/04-6/18
14	演員兼箱管	華智暘	6/04-6/18
15	音樂人員	孫連翹	6/04-6/18
16	音樂人員	林杰儒	6/04-6/18
17	音樂人員	陳珮茜	6/04-6/18
18	音樂人員	潘品渝	6/04-6/18
19	音樂人員	許鈞炫	6/04-6/18
20	容妝設計師	張美芳	6/04-6/18
21	舞台監督	林雅惠	6/04-6/18
22	技術	李思明	6/16-6/18

四、計畫執行重點及內容

(一) 五月宣傳期 - 首演前密集推廣與宣傳

本案由本團與橫濱能樂堂及駐日台灣文化中心聯力共同合作推動，於 5 月 13 日至 17 日期間，密集規劃兩場僑會推廣講座包括世界華人工商婦女企管協會日本分會與橫濱華僑分會；以及安排六家日本媒體專訪，包括神奈川新聞、共同通訊社、朝日新聞、讀賣新聞、東京新聞及每日新聞等最重要主流日本藝文媒體集全力報導，為本演出締造媒體高人氣能見度。據橫濱能樂堂中村雅之館長所言，日本傳統藝能界長久以來未有多家媒體齊聚專訪報導之盛況，台日共同製作《繡襦夢》的跨域合作，引發了日本藝文媒體高度的好奇與熱烈探討。



5月13日午世界華人工商婦女企管協會日本分會講座@東京駐日本台灣文化中心



5月14日晚橫濱華僑總會講座@橫濱能樂堂



神奈川新聞專訪



共同通訊社專訪



朝日新聞專訪



讀賣新聞專訪



東京新聞專訪



毎日新聞專訪



(二) 六月演出期 - 橫濱、新潟及豐田三地首演暨巡演

6月9日橫濱首演前，6月4日至8日期間於橫濱能樂堂進行最後階段台日藝術家音樂磨合及演出整排與正式彩排。



台日共同製作《繡襦夢》六月與橫濱首演，在橫濱能樂堂、國光劇團與駐日台灣文化中心等合作單位聯力努力推動下，更結合許多協力及贊助單位支持，包括世界華人工商婦女企管協會日本分會、東京星晨銀行、友盛貿易公司及橫濱台灣同鄉會等贊助；台新銀行、橫濱華僑總會、趨勢科技及友達光電等企業協力推動，讓台日案共同合作計畫世界首演亮麗登場。

➤ 6月9日與6月17日橫濱世界首演

坐擁 480 席之橫濱能樂堂，兩場票房達衝達八成以上上座率，為日本傳統藝能界難得表現，橫濱能樂堂主辦單位表示過去規劃節目通常只敢主辦一場而已。

6月9日於橫濱能樂堂規劃傳統崑曲《驚夢》、傳統日本舞踊《藤娘》及台日新作《繡襦夢》三段演出呈現。除日本當地觀眾之外，還有遠從台灣特地前來的國光藝友、企業及粉絲團共同參與及見證《繡襦夢》世界首演，包括瑞室企業顧炳容董事長及顧惠文董事總經理、金隆系統科技鄭福深董事長、台灣戲曲學院副校長陳碧涵、資深劇場工作者李易修導演及楊淑雯舞監等。台新銀行更與國光合作，安排 60 張首演票券，邀請重要台新貴賓前來共襄盛舉，所有與會觀眾給予演出極高度肯定與廣大迴響。

6月17日另規劃傳統崑曲《打子》、傳統日本舞踊《汐汲》及台日新作《繡襦夢》三段演出呈現，與會觀眾更是貴賓雲集，包括有日本當地僑界世界華人工商婦女企管協會日本分會、橫濱華僑總會、橫濱臺灣同鄉會等僑團；還有特地遠從台灣飛來的台新銀行吳東亮董事長夫婦、趨勢科技文化長陳怡蓁、友達光電彭双浪董事長夫婦紛紛藉此獨特演出機會包票力挺邀請日本貴賓；台北駐日經濟文化代表處謝長廷代表、橫濱分處陳桎宏處長及駐日臺灣文化中心朱文清主任等政府單位代表亦共同出席，參與台日文化交流共製演出之最重要歷史一刻。台北駐日經濟文化代表處謝長廷代表於演後慶功酒會致詞盛讚表示：「《繡襦夢》經由文化差異的碰撞達到對對方、對自身文化的深度認識及包容，我想這就是這項跨國跨界創作最深刻的意義。」



遠從臺灣特地前來的國光藝友及粉絲團



演前導聆@橫濱能樂堂



傳統崑曲《驚夢》



傳統日本舞踊《藤娘》



台日共製新作《繡襦夢》



傳統崑曲《打子》



傳統日本舞踊《汐汲》



台日共製新作《繡襦夢》



劇評家：大岡淳



國光粉絲：朱靜如與丁榮光



台北駐日經濟文化代表處謝長廷代表蒞臨 6 月 17 日橫濱首演



日本觀眾著傳統和服前來觀賞



6 月 9 日國光藝友齊聚橫濱世界首演



台新銀行吳東亮董事長夫婦率台新同仁



友達光電彭双浪董事長夫婦率友達貴賓



趨勢科技文化長陳怡蓁與旅日作家劉黎兒夫婦



世界華人工商婦女企管協會日本分會



台北駐日經濟文化代表處謝長廷代表、橫濱分處陳桎宏處長、公益財團法人橫濱市藝術文化振興財團及駐日臺灣文化中心朱文清主任、橫濱能樂堂中村雅之館長、國立傳統藝術中心吳榮順主任、國光劇團張育華團長等政府單位代表與合作單位共同出席

➤ 6月10日新潟市民藝術文化會館能樂堂巡演

於新潟執行公演一場、演前導聆一場及參與主辦單位安排演後交流酒會。新潟演出內容規劃演前導聆、傳統崑曲《驚夢》及台日新作《繡襦夢》二段演出呈現，節目特別企劃賦予演出、情境與意象份外到味、獨樹一格之風貌。新潟主辦單位節目總監真田弘彥表示：「他不了解中國戲曲，但透過這次觀賞國光的演出後卻相當意外地帶給他很大的驚喜、感動與啟發。」



具現代與傳統設計之新潟能樂堂空間



台日製演團隊舞台合影



新潟能樂堂前台觀眾進場



主辦單位演後交流酒會

➤ 6月16日豐田市能樂堂巡演

於豐田市能樂堂執行一場校園工作坊講座、二段式演出一場及演前導聆一場，豐田市能樂堂地理位置稍處邊陲，卻擁有相當活躍的觀眾群基礎分別從名古屋、靜岡等地前來觀賞，票房上座率亦達八成以上，觀眾的文化素養水平之高，演員與觀眾間之能量傳遞與流動，在無字幕依賴及語言隔閡的演出接收中，仍全場投入摒息凝神的安靜觀賞，直至最後演出謝幕報以熱烈掌聲，成為此行巡演最令人印象深刻的一場演出，而在豐田，也是國光DVD賣得最好的一場，值得未來建立場館緊連結，拓展為未來國光巡演日本之必訪場館。



6月15日崑曲藝術工作坊@豐田東高校



特地從靜岡前來觀賞的觀眾

參、計畫執行心得

隨著國光劇團近年投入創新實驗製作，陸續製作多部膾炙人口的作品，融合跨界的元素與培育戲曲當代新視野，從臺灣本土出發，讓傳統注入新活水，得以延續傳統戲曲傳承傳演。而國光獨有的製作能力及美學品牌，更引領華文及兩岸地區人文思維趨勢，衍生廣大的口碑迴響。此次首度與亞太地區日本跨域跨文化合作製作，以國光製演品牌團隊為編創群主導，與日本藝術家交融磨合出又一國際演出成熟之作，帶動傳統與當代之探討與重視，值得欣喜。台日合作跨域製演《繡襦夢》已然成為國光劇團首次跨越華文地區連結國際合作之重要製作典範，肯定將為國光的文化品牌形象，締造更多的國際能見度與影響力。

本案於 2018 年 6 月 4 日至 18 日於日本三地巡演為期 15 天的巡演順利落幕，面對台日雙方傳統藝能的碰撞，開創出的不是只有舞台、燈光背景上的創新，也不是各演各的，而是成功找到這兩種藝術間相似的元素，將其合而為一。這場演出製作有幸於雙方藝術家能試圖理解彼此相異的藝術語言，在兩道文化光譜的相互照應下，讓臺日共製計畫歷經三年沈穩有序的向前邁進，直至磨合成熟，相信未來這部作品將能再國際間不斷搬演，引領國際更多的探討及重視。

肆、建議事項

一、以 2018 台日合作案首演為啟動，洽談未來國際巡演

戲曲文化傳承發展，除注入當代意識之外，乃需要透過經典作品不斷的呈現及搬演，引領更多的探討及思潮。傳世經典乃連結全球普世共同的人性與情感，希冀本演出計畫獲成功迴響立足臺灣與日本之後，除企圖於日本各地能樂堂後續巡演之外，更拓展於亞太各地如中國、香港、韓國、新加坡及馬來西亞等地演出之機會，最後放眼歐、美、澳國際場域，增進更多國際演出的機會與能見度，持續累積國光劇團「臺灣京劇新美學」的國際品牌形象，促進東西方文化更多的交流。

二、以「台灣京崑新美學」之未來探索視野持續發展國際合作，創造國光劇團品牌特色

國光劇團之當代實驗小劇場製作，自 2013 年-2014 年開啟以臺灣本土跨界製作規模以來，2016 年發展與香港導演共同合作，目前更邁向 2018 年與亞太跨文化共同合作，所累積之品牌與口碑，已在亞太地區形成一股前驅影響力。去年國光更洽定與新加坡跨域合作製演交流計畫；未來更籌備與波蘭的傳統偶戲跨界合作。期待國光劇團的製作品牌能力，能不斷突破創新與世界各國展開傳統與當代的對話與交流。

伍、附件-日台媒體報導

媒體	報導日期	新聞標題
日本	台灣新聞	5/07 日台共同制作的「繡襦夢」、初披露
	讀賣新聞	5/23 中國的「崑劇」與三味線融合
	新潟日報	5/25 能樂堂で楽しむ崑劇—伝統と新風— (6月10日、新潟市民芸術文化会館)
	西日本新聞	5/28 崑劇と三味線音楽がコラボ
	神奈川新聞	5/30 崑劇と三味線コラボ 新しい可能性に期待
	毎日新聞	5/31 崑劇の温宇航、横浜能樂堂で主演 日本舞踊学び準備
	東京新聞	6/01 崑劇、能樂、三味線コラボ 日台共同で新作劇 横浜で公演
	徳島新聞	6/03 崑劇と三味線音楽コラボ 9日から舞台「繡襦夢」
	山陽新聞	6/05 崑劇と三味線音楽コラボ 9日から舞台「繡襦夢」
	福井新聞	6/05 崑劇と三味線音楽コラボ 9日から舞台「繡襦夢」
	日本海新聞	6/05 異色の舞台「繡襦夢」
	朝日新聞	6/07 邦楽と台湾の崑劇が融合 横浜能樂堂で上演
台灣	中央社	6/09 台日共編繡襦夢新戲 全球首演受好評
	中國時報	6/09 台日合作《繡襦夢》首演 日本藝評：為傳統藝術找到新可能
	中國時報	6/11 崑曲、舞踊攜手 繡襦夢驚豔東瀛
	旺報	6/19 台日合作繡襦夢 創新表演獲好評
	旺報	6/19 跨文化交流 演出傳統戲曲新韻味

日台共同制作の「繡襦夢」、初披露

日台伝統文化が融合する公演「花開く伝統—日台の名作と新作—」が6月9日と同17日、横浜能楽堂で行われる(9日=13時開場・14時開演、17日=15時開場・16時開演)。

同公演では、日本の横浜能楽堂と台湾の国光劇団が共同制作に挑んだ「繡襦夢」を初めてお披露目するほか、崑劇の名曲「牡丹亭」(9日)「繡襦記」(17日)の一場面と併せ、日本舞踊の名曲「藤娘」(9日)「汐汲」(17日)が上演される。

「繡襦夢」は、各分野を代表する芸術家が、日本と台湾を行き来し、ぶつかり合いながらも相互理解を深め作り上げた作品。崑劇の古典作品「繡襦記」を下地に、夢幻能の形式を取り入れ、日本の三味線音楽を融合させている。主演は、国光劇団に所属しながら国際的に活躍する崑劇のトップスター・温宇航。相手は、注目の若手スター・劉珈后。音楽は、常磐津の三味線奏者・常磐津文字兵衛が音楽監督・作曲・演奏を務めるのに加え、長唄の今藤美治郎・杵屋秀子・今藤政貴らが日本から参加。国光劇団の演奏家と共演する。演出は、台湾のコンテンポラリーシーンを牽引する王嘉明が務める。

チケットは電話、web、横浜能楽堂のチケットカウンターで購入可能。S席 6,000円、A席 5,000円、B席 4,000円となっている(全席指定)。

問い合わせ↓

横浜能楽堂 Tel : 045-263-3055

Web : <http://www.ynt.yaf.or.jp>



Photo by Liou Jenn-Hsiang, courtesy of the GuoGuang Opera Company

2018年(平成30年)5月23日(水曜日)

言

堂

楽

座

中国の「崑劇」と三味線融合 新作舞台「繡襦夢」

中国の「崑劇」と日本の三味線音楽が融合した新作舞台「繡襦夢」が6月、横浜、新潟、愛知・豊田の3都市の能楽堂で巡演される。

14世紀頃に発祥した崑劇は、国連教育・科学・文化機関(ユネスコ)の世界無形文化遺産に登録された中国の伝統演劇。後発の京劇に比べ、優美な節回しを特徴としている。国光劇団(台湾)と横浜能楽堂が

共同制作した「繡襦夢」は、台湾在住の崑劇のトップスター温宇航(47)＝写真右＝が主演。唐代の青年と遊女の恋物語を描いた崑劇「繡襦記」を基に、時空を超越する日本の夢幻能の形式も取り入れた作品で、音楽は常磐津三味線の常磐津文字兵衛(56)＝同左＝が新たに作曲した。温は「それぞれ長い伝統を持つ芸術家同士の対話。日本の音楽は演じる



人物の内面に深さと豊かさをもたらしてくれる。音楽の中にある感情を

どう表現できるか、深い所まで聴いて身体と融和させたい」と語る。

舞台上で三味線演奏も担当する文字兵衛は「絆糸曲折、試行錯誤の末に崑劇の楽器と合わせられた。一座のチームワークはバッチリで、今後も交流が続けば、より深いものが生まれる可能性がある」と手応えを語った。

6月9、17日に横浜能楽堂、10日にりゅーとぴあ(新潟)の能楽堂、16日に豊田市能楽堂で上演、9月に台湾公演も予定している。

文化

能楽堂で楽しむ崑劇—伝統と新風—

(6月10日、新潟市民芸術文化会館)

ステージへ
ようこそ

日本人にとって、「京劇」は馴染みがあるが、同じ中国発祥の古典演劇でも、「崑劇」となると、知っている人はグッと少ないだろう。

しかしユネスコの世界無形文化遺産になっているのは、「京劇」ではなく「崑劇」の方。意外に思うかもしれないが、「京劇」が誕生したのは清の末期だから200年にもならない。それに対し「崑劇」は、明の初期の成立だからずっと古い。

大雑把ではあるが、「京劇」と「崑劇」の関係は、「歌舞伎」と「能」に似ている。「京劇」の動きが活発なのに対し、「崑劇」はゆったりとした優雅な動きが持ち味だ。

崑劇は、来日公演もほと

進化する幻の古典芸能

600年以上の歴史を持つ中国の伝統演劇「崑劇」



んど無いが、北京に行つて中でも名作中の名作ときさても、そう見ることはできない。京劇は、毎日幾つもの劇場で上演されているが、崑劇となると工力所だけ。それも毎日公演が行われている訳ではない。旅行に行つても「運が良ければ」といったところだ。「幻の芸能」と言つても過言ではないだろう。

日本で「崑劇」という言葉が一躍知られるようになったのは、歌舞伎の坂東玉三郎が、2008年に崑劇の役者と共演してからだ。この時の演目が、「崑劇」

では、新たな取り組みを始めた。これまでの古典に加え、台湾ならではの新しい崑劇を生み出そうというのだ。その第1作が、横濱能楽堂と共同制作した「繡襦夢」。主演は、もちろん温。脚本は、大御所の王安祈ら、演出は注目現代演劇の演出家・王嘉明が担当した。

そこに、日本から「ミニ文化勲章」と言われる紫綬褒章や日本芸術院賞を異例の若さで受けている三味線の名手・常磐津文字兵衛ら

グローバリズムとローカルリズムが交錯する「グローカルリズム」の時代を象徴する企画と言えるだろう。

(中村雅之・明治大学大学院兼任講師)

■6月10日午後4時開演。りゅーとびあチケット専用ダイヤル、025(224)5521。

昆劇と三味線音楽がコラボ 来月に舞台「繡襦夢」



「繡襦夢」の温宇航(劉振祥撮影、国光劇団提供)

台湾の「国光劇団」と横浜能楽堂が異色の舞台を共同制作。昆劇と三味線音楽を合わせた「繡襦夢」が6月、横浜市など3市で上演される。

芸能。今回はその代表作「繡襦記」から生み出されたオリジナルストーリーで、劇団俳優の温宇航が主演、日本の常磐津の三味線奏者・常磐津文字兵衛が音楽監督、作曲、演奏を務める。「繡襦記」は唐の青年・鄭元和が遊女の李亜仙と知り合い没落、後に出世を果たす物語だが、今作は80歳になった元和が、姿を消した亜仙の形見の羽織物と過去、現在を行き来する。温は「伝統をベースに新たに人物解釈を加えて演じている。」

ます。実験的なことですよ」と意欲的。三味線音楽から「日本のリズム、演劇性を感じる」と言い、共演を楽しみにしている。9月には台湾国内で上演予定という。

新作と併せ昆劇の代表作「牡丹亭」の「驚夢」、横浜では「繡襦記」の「打子」も上演。「昆劇の完成された戯曲、美しい音楽を味わってほしい」と温は語っている。

詰め問

詰将棋作家 角建逸

ヒント 馬の力を使います。

初級問題「5分で初段」11手詰め。

持駒 銀 金香

5	4	3	2	1	
		飛	料	皇	一
	馬				二
			王	卒	三
			蟹		四
					五

伝統芸能を楽しむ



中国の伝統芸能「昆劇」と能楽、三味線音楽を組み合わせた新作劇「繡襦夢」が九日午後二時と、十七日午後四時、横浜能楽堂で上演される。台湾の「国光劇団」と同能楽堂が共同制作し、同劇団の名優温宇航が主演、日本の常磐津の三味線奏者、常磐津文字兵衛が音楽監督と作曲、演奏を務める。

昆劇はせりふ、歌、立ち回りが

▲異色作について
話す温宇航(左)と常
磐津文字兵衛

昆劇、能楽、三味線コラボ

日台共同で新作劇



「繡襦夢」の温宇航—劉振祥撮影、
国光劇団提供

一体となった芸能で、京劇より前、十六世紀ごろから中国各地で流行した。今回は名作「繡襦記」を基にしたオリジナル作品で、霊的な存在がシテ(主人公)となる夢幻能の形式を取り入れた。唐の鄭元和がかつてじつこんだった遊女の李亜仙の姿を追い求める物語で、過去と現在が交錯するように

9、17日に横浜で公演

展開していく。

温は「台湾と日本の異文化交流により、昆劇も能楽も新たな可能性が広がる」と話し、夢幻能のスタイルで展開する舞台に「シンブルだが深さもある表現。違和感がない」と言う。文字兵衛は三味線と唄、中国の伝統楽器の昆笛、笙、司鼓など約十種類のパートを筆、編曲した。「音階の違いの調整に苦労したが、日台コラボの音楽パートが変幻自在に交錯する重厚な構成となった」

横浜能楽堂 | 045・263・3055。ほかに十日に新潟市、十六日に愛知県豊田市で公演。九月には台湾公演も予定している。(小林泰介)

台湾の「国光劇団」は、その代表作「繡襦督、作曲、演奏を務めた元和が、姿を消した元仙の形見の羽織物

「繡襦夢」が六月、横浜市など3市で上演される。

昆劇はせりふ、歌、航が主演、日本の常磐 亜仙と知り合い没落、津の三味線奏者・常磐 後に出世を果たす物語 館、16日愛知県豊田市

昆劇と三味線がコラボ

今月、舞台「繡襦夢」

は9、17日 横浜能楽

は、その代表作「繡襦督、作曲、演奏を務めた元和が、姿を消した元仙の形見の羽織物

「繡襦記」は唐の青と過去、現在を行き来する。日程

で、同劇団俳優の温宇年・鄭元和が遊女の李堂、10日ゆーとびあ

津文字兵衛が音楽監督だが、今作は80歳にな



「繡襦夢」の温宇航(劉振祥撮影、国光劇団提供)

昆劇と三味線音楽コラボ 9日から舞台「繡襦夢」

台湾の「国光劇団」と横浜能楽堂が異色の舞台を共同制作。昆劇と三味線音楽を合わせた「繡襦夢」が9日から、横浜市など3市で上演される。

昆劇はせりふ、歌、しぐさ、立ち回りが一体の伝統芸能。今回はその代表作「繡襦記」から生み出されたオリジナルストーリーで、同劇団俳優の温宇航が主演、日本の常磐津の三味線奏者・常磐津文字兵衛が音楽監督、作曲、演奏を務める。

「繡襦記」は唐の青年・鄭元和が遊女の李亜仙と知り合い没落、後に出世を果たす物語だが、今作は80歳になった元和



「繡襦夢」の温宇航(劉振祥撮影、国光劇団提供)

が、姿を消した亜仙の形見の羽織物と過去、現在を行き来する。

温は「伝統をベースに新たに人物解釈を加えて演じます。実験的なことです」と意欲的。三味線音楽から「日本のリズム、演劇性を感じる」と言い、共演を楽しみにしている。9月には台湾国内で上演予定という。

新作と併せ昆劇の名作「牡丹亭」の「驚夢」、横浜では「繡襦記」の「打子」も上演。「昆劇の完成された戯曲、美しい音楽を味わってほしい」と温は語っている。

昆劇と三味線音楽コラボ

横浜など3市舞台「繡襦夢」を上演



「繡襦記」はおとぎ話でハッピーエンド。今回の新作は複雑で豊かな内容です」と語る温宇航=東京都内

台湾の「国光劇団」と横浜能楽堂が異色の舞台を共同制作。昆劇と三味線音楽を合わせた「繡襦夢」が6月、横浜市など3市で上演される。

昆劇はせりふ、歌、しぐさ、立ち回りが一体の伝統芸能。今回はその代表作「繡襦記」から生み出されたオリジナルストーリーで、同劇団俳優の温宇航が主演、日本の常磐津の三味線奏者・常磐津文字兵衛が音楽監督、作曲、演奏を務める。

「繡襦記」は唐の青年・鄭元和が遊女の李亜仙と知り合い没落、後に出世を果たす物語だが、今作は80歳になった元和が、姿を消した亜仙の形見の羽織物と過去、現在を行き来する。

温は「伝統をベースに新たに人物解釈を加えて演じます。実験的なことです」と意欲的。三味線音楽から「日本のリズム、演劇性を感じる」と言い、共演を楽しみにしている。9月には台湾国内で上演予定という。

9月には台湾国内で上演予定という。9月には台湾国内で上演予定という。9月には台湾国内で上演予定という。

「繡襦夢」の温宇航(劉振祥撮影、国光劇団提供)



新作と併せ昆劇の名作「牡丹亭」の「驚夢」、横浜

『繡襦記』はおとぎ話今豊でハッピーエンド。複雑かな内容です」と語る温宇航=東京都内



「繡襦記」は唐の青年・鄭元和が遊女の李亜仙と知り合い没落、後に出世を果たす物語だが、今作は80歳になった

昆劇はせりふ、歌、しぐさ、立ち回りが一体の伝統芸能。今回はその代表作「繡襦記」から生み出されたオリジナルストーリーで、同劇団俳優の温宇航が主演、日本の常磐津の三味線奏者・常磐津文字兵衛が音楽監督、作曲、演奏を務める。

台湾の「国光劇団」と横浜能楽堂が異色の舞台を共同制作。昆劇と三味線音楽を合わせた「繡襦夢」が6月、横浜市など3市で上演される。

異色の舞台「繡襦夢」

昆劇×三味線音楽

台湾と横浜能楽堂がコラボ



「繡襦夢」の温宇航(劉振祥撮影、国光劇団提供)

元和が、姿を消した亜仙の形見の羽織物と過去、現在を行き来する。温は「伝統をベースに新たに人物解釈を加えて演じます。実験的なことです」と意欲的。三味線音楽から「日本のリズム、演劇性を感じる」と言い、共演を楽しみにしている。9月には台湾国内で上演予定という。

新作と併せ昆劇の名作「牡丹亭」の「驚夢」、横浜では「繡襦記」の「打子」も上演。「昆劇の完成された戯曲、美しい音楽を味わってほしい」と温は語っている。

※新作と「驚夢」の組み合わせが6月9日＝横浜能楽堂(日本舞踊の「藤娘」も上演)、10日＝リューとぴあ・新潟市民芸術文化会館、16日＝愛知県豊田市能楽堂。17日の横浜能楽堂では新作に加え、「驚夢」でなく「繡襦記」の「打子」を上演し、併せて日本舞踊「汐汲」も上演

元和が、姿を消した亜仙の形見の羽織物と過去、現在を行き来する。温は「伝統をベースに新たに人物解釈を加えて演じます。実験的なことです」と意欲的。三味線音楽から「日本のリズム、演劇性を感じる」と言い、共演を楽しみにしている。9月には台湾国内で上演予定という。

邦楽と台湾の崑劇が融合 横浜能楽堂で上演

日本と台湾が共同制作する伝統芸能の新作舞台「繡襦夢」が9、17日、横浜市の横浜能楽堂で上演される。企画公演「花開く伝統 日台の名作と新作」での披露。邦楽と台湾の崑劇の融合を目指す。同能楽堂と台湾の国光劇団

が協業。崑劇の古典作に能形式、常磐津節と長唄の三味線音楽を溶け込ませた。老齢の男性が恋情を断ち切れず、幻世界をさまよう内容だ。常磐津文字兵衛が音楽監督・作曲を担い、演出は王嘉明。9月には台湾公演も予定する。

主演の温宇航は「異なるリズムの三味線音楽との共演で新しい身ぶり表現も創出した」と話す。9日午後2時、17日午後4時。長唄による日本舞踊、伝統様式による崑劇も上演。045・263・3055(能楽堂)。(米原範彦)



「繡襦夢」に出演する温宇航 Photo by Liou Jenn-Hsiang, courtesy of the GuoGuang Opera Company



屋「妹背山婦女庭御殿」で、時蔵の村不条理な時間に巻き言い交わした男が高者と知らず、後を追意地悪な官女たちにさんさんにいじめられ六代目歌右衛門かた型のとおり、お三ちに囲まれ、胸を突する。官女は去り、

評

台日共編繡襦夢新戲 全球首演受好評

發稿時間：2018/06/09 21:39

最新更新：2018/06/09 21:53

字級：A- A+



國光劇團與日本橫濱能樂堂合作，交融崑曲、舞蹈、三味線並融入當代音樂與偶戲的「繡襦夢」9日在日本橫濱舉行全球首演，備受好評。中央社記者楊明珠橫濱攝 107年6月9日

（中央社記者楊明珠橫濱9日專電）國光劇團與日本橫濱能樂堂合作，交融崑曲、舞蹈、三味線並融入當代音樂與偶戲的「繡襦夢」今天在日本橫濱舉行全球首演，備受好評。

台日合作將雙方的傳統表演做結合、創新，今天下午以「花開的傳統」為主題在橫濱能樂堂上演「繡襦夢」大戲。節目有三大段，第一段由京崑王子溫宇航、劉珈后主演經典崑劇「牡丹亭」中的「驚夢」，杜麗娘夢到柳夢梅的場面。

第二段上演日本傳統舞蹈「藤娘」，由舞蹈名家水木佑歌主演，描述從畫作裡走出來的紫藤花精靈，以獨舞傳達對愛情的渴望。

第三段是由王嘉明執導，以崑曲「繡襦記」為原型，交融崑曲、舞蹈與三味線，融入當代音樂與偶戲新編的「繡襦夢」。內容描述80歲的唐代書生鄭元和（溫宇航飾演）在江畔回顧一生，回想初戀的李亞仙（劉珈后飾演），上京趕考的記憶，在夢與真實難辨之中，交錯揮映內心的遺憾與美好回憶。

「繡襦夢」除了崑曲之外，加入了日本傳統講唱形式的長唄，以及常磐津文字兵衛的三味線演奏。溫宇航的表演融入了部分日本舞蹈身段，由藤間惠都子指導。

國立傳統藝術中心國光劇團團長張育華對中央社記者表示，國光劇團是一個京劇團，京劇大師梅蘭芳1919年首度訪日造成轟動，國光劇團今天能在日本做這項表演實在很榮幸。崑曲和能劇都是被列入文化遺產的劇種，這次不只是台日互相觀摩，最重要的是共同創作，機會難得，也是百年一見。

2018/8/6

台日共編繡襦夢新戲 全球首演受好評 | 文化 | 中央社 CNA

她說：「在整個過程，我們不只了解了對方的文化，而且能真正的非常近的去接觸到對方文化的深度的精緻感，真的是成果豐碩。很期待未來還有這樣的深入的交流合作的機會。」

這項台日合作是因駐日代表處台灣文化中心主任朱文清引介促成，3年前橫濱能樂堂館長中村雅之訪台，確定與國光劇團合作，並邀請熟悉日本劇場的林子（立立）擔任演劇顧問。

今天中村在觀劇後大讚表演實在精彩，一開始就希望由溫宇航挑大樑，他真不愧是崑劇明星，充分發揮了實力。

喜愛日本傳統戲劇的西口女士在觀賞後稱讚不已。她說：「實在太精彩了，好像是夢的世界，看了讓人覺得如獲財產，留下了美好的回憶。真的很感謝。」

「繡襦夢」演出者與工作人員明天在新潟、16日在豐田市巡演，17日再回到橫濱能樂堂表演，第一、二、三段分別為崑曲「繡襦記」的折子「蓮花」、日本舞踊「汐汲」、新編的「繡襦夢」。一行9月8、9日在台中歌劇院、14至16日在台灣戲曲中心演出。（編輯：王同禹）1070609



台日合作將雙方傳統表演結合並創新，9日在日本橫濱能樂堂上演「繡襦夢」大戲。節目第一段由溫宇航、劉珈后主演崑劇「牡丹亭」中的「驚夢」。中央社記者楊明珠橫濱攝 107年6月9日

台日合作《繡襦夢》首演 日本藝評：為傳統藝術找到新可能

2018年06月09日 20:18 [中時 李欣恬](#)



台日跨國合作作品《繡襦夢》，劇中男主角鄭元和僅能透過一只飛舞的繡襦思念舊情人。（李欣恬攝）



台日跨國合作作品《繡襦夢》，溫宇航（右）巧妙透過借位，變身成80歲老頭，和劉珈后（左）所飾演的李亞仙，互訴衷情。（李欣恬攝）



台日跨國合作作品《繡襦夢》，將繡襦轉化成偶，時而做出崑曲身段的形體，時而又變成一塊不動的布。由石佩玉、王詩淳擔任操偶。（李欣恬攝）

國光劇團與日本橫濱能樂堂耗時3年、跨國合作作品《繡襦夢》，於今（9）日台灣時間下午三點在橫濱能樂堂完成首演。精緻的崑曲表演藝術身段和唱腔、典雅的三味線演奏，加上日本傳統舞踊，融合出創新的表演形式，博得觀眾滿堂彩，日本知名劇評家大岡淳給予高度評價，表示這個作品「為傳統藝術找到未來的新可能」。

大岡淳從事戲劇評論20多年，現任職於靜岡表演藝術中心，擔任導演、劇評與劇作家等職位，他表示：「過去看過許多傳統藝術跨國合作的作品，失敗案例很多，但我在這個作品裡看見藝術家們勇於衝撞、試圖融合，並找到可行的形式，未來可以在傳統藝術的傳承上繼續發酵，是個成功的作品。」

今日下午現場觀眾滿座，有特地從東京來到橫濱欣賞演出的觀眾阿部京子，她平時從事藝術工作，平常喜愛欣賞表演藝術，她表示，樂見東方的崑曲和日本的三味線、舞踊藝術融合，表示給予高度評價，也特別肯定國光劇團樂師的現場演奏能力，以及特別從京都到橫濱欣賞演出的大陸學生王夢石，現正就讀京都藝術大學保存修復研究所的他，也特別來欣賞崑曲和日本傳統藝術融合之後的面貌。

為了讓觀眾更能理解傳統崑曲、舞踊之美，演出特別分為三大段，第一段為經典崑曲《牡丹亭》的〈驚夢〉，國家劇團當家小生溫宇航和花旦劉珈后，巧妙詮釋杜麗娘在夢中與柳夢梅相遇的場景，令日本觀眾感到驚喜；第二段為傳統舞踊《藤娘》，由日本舞踊名家水木佑歌擔任主演，詮釋一名從畫作裡走出來的紫藤花精靈，以獨舞傳達對愛情的渴望；第三段為改編自崑曲《繡襦記》的《繡襦夢》，繡襦即是斗篷之意；描述80歲的書生鄭元和，回望過往與名妓李亞仙的戀情，喚不回的回愛情，只能透過一只飛舞的斗篷睹物思人，鄭元和和李亞仙由溫宇航、劉珈后飾演，斗篷則是由石佩玉、王詩淳擔任操偶。

《繡襦夢》導演為王嘉明，戲劇顧問為林子竝，編劇為王安祈和林家正，下一站將在6月10日在日本新瀉演出，16日在豐田市能樂堂，17日再回到橫濱能樂堂，之後回台北演出。

<http://www.chinatimes.com/print/realtimenews/20180609002712-260405>

崑曲、舞蹈攜手 繡襦夢驚豔東瀛

2018年06月11日 04:10 中國時報 李欣恬 / 專訪



台日合力編劇的作品《繡襦夢》，劇中的書生鄭元和名妓李亞仙，透過一只飛舞的繡襦互訴情意。左為演員溫宇航，右為演員劉迦后。（李欣恬攝）



日本知名劇評人大岡淳郎為，台日合力編劇的作品《繡襦夢》，為傳統戲曲找到新的未來。（李欣恬攝）

在傳統戲曲逐漸凋零的年代，如何創新、吸引新觀眾，是亞洲各國藝術家長年必須面對的課題。台日雙方耗時3年，汲取中國崑曲、日本舞踊和三味線，這三大世界文化遺產的表演特色元素，合力編創新作《繡襦夢》，日前在東京橫濱舉行世界首演，獲得極大好評，日本知名劇評人大岡淳表示：「就歷史意義而言，這個作品為傳統戲曲找到新未來。」同時他也大膽指出：「崑曲的未來，在台灣有許多發揮的空間。」

突破傳統 挑戰禁忌

大岡淳從事戲劇評論20多年，現任職於靜岡表演藝術中心，負責導演、劇評與劇作家等工作，他說：「過去看過許多亞洲傳統藝能跨國合作的作品，失敗案例很多，但我在這個作品裡看見藝術家們勇於衝撞、試圖融合，並找到可行的形式，留下來的經驗，未來可以在傳統藝術的傳承上繼續發酵，是個成功的作品。」

大岡淳表示，日本傳統藝能趨於保守，有許多既定的樣式無法更改，以這回《繡襦夢》為例，「在日本傳統藝能的規矩，設定好的結局是無法更改的，改了就是犯大禁忌，但台灣把《繡襦夢》從快樂結局改為悲劇收尾，這是很大的突破；從這一點，我看見台灣在尊重傳統的同時勇於更改、創新，為崑曲拉攏新的觀眾群，我相信崑曲未來的可能性，在台灣將會有許多發展機會。」

睹物思人 斗篷變飛偶

《繡襦夢》改編自崑曲《繡襦記》，繡襦即是斗篷之意；故事描述80歲的書生鄭元和，回望過往與名妓李亞仙的戀情，喚不回的愛情，只能透過一只飛舞的斗篷睹物思人。

鄭元和和李亞仙由溫宇航、劉珈后飾演，斗篷則是由石佩玉、王詩淳擔任操偶。貫穿其中的三味線演奏和說唱藝術，加上崑曲文武場演奏，彼此相互對話和交融。

首演當日現場觀眾滿座，有特地從東京來到橫濱欣賞演出的觀眾阿部京子，她樂見東方的崑曲和日本的三味線、舞踊藝術融合，給予高度評價，也特別肯定國光劇團樂師的現場演奏能力。還有特別從京都到橫濱欣賞演出的大陸學生王夢石，現正就讀京都藝術大學保存修復研究所的他，也特別來欣賞崑曲和日本傳統藝能融合之後的面貌。

(中國時報)

台日合作繡襦夢 創新表演獲好評

2018年06月19日 04:09 [旺經](#) 本報系記者李欣恬 / 台北報導



台日跨國合作作品《繡襦夢》。劇中男主角鄭元和僅能透過一只飛舞的繡襦思念舊情人。左為演員溫宇航、右為演員劉珈后。(本報系記者李欣恬攝)



三味線是日本的一種弦樂器，通常會用銀杏形的撥來彈奏。圖為日本節日時，舞者一邊遊行一邊彈奏表演。(CFP)



《繡襦夢》將日本舞踊融入崑曲表演身段。圖為舞踊名家藤間惠都子（右），指導崑崑名角溫宇航舞踊表演橋段。（本報系記者李欣恬攝）

台日雙方耗時3年，汲取中國崑曲、日本舞踊和三味線這三大世界文化遺產的表演特色元素，合力編創新作《繡襦夢》，日前在東京橫濱舉行世界首演，獲得好評。

日本知名劇評人大岡淳表示：「就歷史意義而言，這個作品為傳統戲曲找到新未來。」同時他也大膽指出：「崑曲的未來，在台灣有許多發揮的空間。」

勇於突破 試圖融合

特地從東京來到橫濱欣賞演出的觀眾阿部京子，她平時從事藝術工作，也喜愛欣賞表演藝術。她表示，樂見東方的崑曲和日本的三味線、舞踊藝術融合，表示給予高度評價，也特別肯定國光劇團樂師的現場演奏能力。現正就讀京都藝術大學保存修復研究所的大陸學生王夢石，特別從京都來到橫濱，欣賞崑曲和日本傳統藝能融合之後的面貌。

大岡淳從事戲劇評論20多年，現任職於靜岡表演藝術中心，負責導演、劇評與劇作家等工作。他表示：「過去看過許多亞洲傳統藝能跨國合作的作品，失敗案例很多，但我在這個作品裡看見藝術家們勇於衝撞、試圖融合，並找到可行的形式，留下來的經驗，未來可以在傳統藝術的傳承上繼續發酵，是個成功的作品。」

傳統藝能 彼此交融

大岡淳表示，日本傳統藝能趨於保守，有許多既定的樣式無法更改，以這回《繡襦夢》為例，「在日本傳統藝能的規矩，設定好的結局是無法更改的，改了就是犯了大禁忌。但是台灣把《繡襦夢》從快樂結局改為悲劇收尾，這是很大的突破；從這一點，我看見台灣在尊重傳統的同時，勇於更改、創新，不僅能為崑曲拉攏新的觀眾群，我相信崑曲未來的可能性，在台灣將會有許多發展機會。」

《繡襦夢》改編自崑曲《繡襦記》，繡襦即是斗篷之意；故事描述80歲的書生鄭元和，回望過往與名妓李亞仙的戀情，喚不回的愛情，只能透過一只飛舞的斗篷睹物思人。鄭元和和李亞仙由溫宇航、劉珈后飾演，斗篷則是由石佩玉、王詩淳擔任操偶。貫穿其中的三味線演奏和說唱藝術，加上崑曲文武場演奏，彼此相互對話和交融。

（旺報）

跨文化交流 演出傳統戲曲新韻味

2018年06月19日 04:09 旺報 本報記者李欣恬 / 台北報導



能劇舞台的長廊與前舞台的交接處，在傳統裡代表陰陽交界之處。（取自國光劇團臉書）

傳統戲曲不只是華人的寶藏，更是全人類的文明資產，京劇大師梅蘭芳曾到歐美及日本演出，日本歌舞伎名家坂東玉三郎曾演出崑曲《牡丹亭》，大陸梅花獎得主李光，曾和歌舞伎演員同台演出，均造成話題，轟動一時。

國光劇團當家小生溫宇航表示：「過去的交流方式，是以展現各自的特色為主，這回京劇、崑曲加上日本歌舞伎合作演出，我們算是找到了一種融合的可能方式。」

溫宇航來自北京，專精於京劇、崑曲，1999年曾參與紐約林肯中心藝術節，與崑曲名伶錢熠同台，連演19小時《牡丹亭》，這回他在《繡襦夢》裡飾演鄭元和一角。

由於表演舞台為能劇舞台，按照日本傳統必須穿著名為「足袋」的襪子登台，並以「擦足」腳步不能抬高的方式走路，溫宇航將這些肢體特色，融入他的崑曲表演身段裡，「像是走路的步伐，我盡量讓自己像是漂浮一樣的貼地快速行走，或是表現情緒激昂時，順著音樂節奏用力跺腳，這也是來自日本舞蹈的肢體特色。」

這回擔任演奏三味線的常磐津文字兵衛，來自150年傳統的三味線家族，他表示，崑曲有600年歷史，三味線有400年歷史，這是兩者首次合作，意義非凡，「這兩種表演藝術要合在一起，最困難的地方就是音樂，除了樂器律制屬性不同之外，我們也得捕捉彼此的韻味，才能讓整齣戲不會感到突兀、有違和感。」

戲劇顧問林于(立立)鑽研日本傳統表演藝術多年，他表示：「能劇舞台的長廊與前舞台的交接處，在傳統裡代表著陰陽交界之處，演員們從長廊走出場，代表從虛幻的空間，走向現世，演出一個帶有夢境的情節，值得玩味。」

(旺報)